

# 西神ニュータウン研究会 会報

第202号 2020年2月

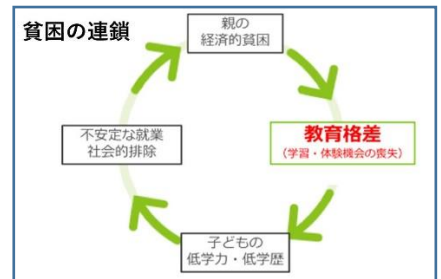
## ■第202回例会記録

- ・日時 2020年1月17日（金）18:30～20:30
- ・場所 ユニティ特別会議室 ・参加者23名
- ・テーマ 神戸みらい学習室について～ニュータウンにおける学習支援の取り組み～
- ・発表者 佐々木 宏昌 氏（神戸みらい学習室代表）



## ■「神戸みらい学習室」は「地域資源をつなぐ、ソーシャルイノベーション」と考えています。

- ・神戸市職員として、生活保護を担当した経験もあり、「**貧困の連鎖**」に取り組むたいと考えるようになった。
- ・神戸市役所の働き方改革で、職員の地域貢献促進の動きもあり、「**子どもの福祉**」+「**ビジネス**」→「**ソーシャルビジネス**」として取り組むことになる。



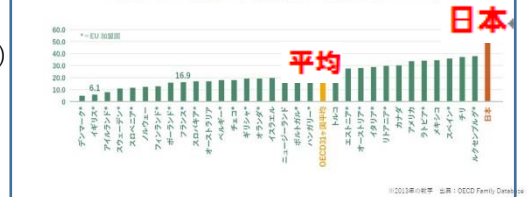
## ■7人に1人の子どもが、貧困状態にあります。また、ひとり親世帯に限ると2人に1人が貧困状態にあり、これはOECD諸国の中では最悪の数字となっています。

- ・子どもの相対的貧困率（全国） 13.9% （7人に1人）  
神戸市の貧困ひとり親世帯 約4000世帯（生活保護世帯除く）
- ・不登校中学生（神戸市） 1506人（中学生20人に1人）  
（全国） 約45万人（隠れ不登校を含む）

### ソーシャルビジネスとは？

- 社会性：社会的課題に取り組む
- 事業性：ビジネスの形で事業を継続
- 革新性：新たな仕組みを開発・広げる

また、ひとり親世帯に限ると2人に1人が貧困状態にあり、これはOECD諸国の中では最悪の数字となっています。



## 貧困が教育格差に繋がる。

- ・平均偏差値（全国 12歳 国語）  
生活保護世帯の子ども 46.6（その他の子ども 51.8）
- ・進学率（全国）生活保護世帯 33.1%（全世帯 73.2%）
- ・貧困、不登校などの課題は福祉制度の狭間で取り残されていたが、近年、法整備されつつある。

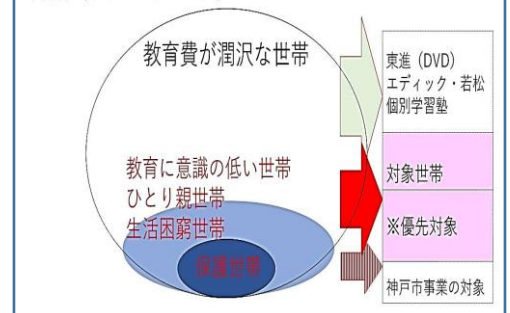
- ・子どもの貧困対策支援法（2014年）
- ・生活困窮者自立支援法（2015年）
- ・教育機会確保法（2016年）  
⇒学校との連携

- ・私立高校の無償化の拡大（年収上限）
- ・幼保無償化

## ■2017年、「神戸みらい学習室」を、「すべての子どもに等しく教育の機会を」のコンセプトで、神戸市職員有志で立ち上げる。

- ・様々な事情で塾に通えない中学生に、無料学習支援を行う。  
（学園都市校、本山校、毎週日曜 午後）
- ・外大、県立大の学生等がボランティアで、講師を務める。
- ・子どもたちの状況 母子家庭4割、生活困窮2割、発達障害1割、不登校1割、その他2割

### 対象（ポジショニング）



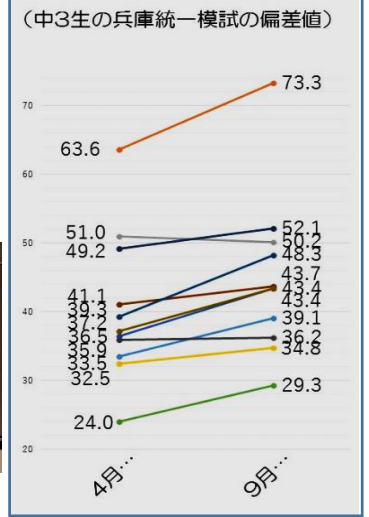
- ・学習会の初めの「夢ゼミ」では、大学生から、留学などの大学生活や勉強することの意義、子ども達の

将来の夢の提案している。

子ども達自身が将来の夢や目標を描き、それに向かって努力できるように。

- ・模擬試験などを受験することで、適切な評価を、**見える化**し、「できるようになる」イメージを持たせている。(模擬試験の偏差値が向上している)

### 夢ゼミ



### ●学習室のビジネスモデルを構築

神戸市職員が、**地域貢献応援制度**（市職員という社会資源の活用）の趣旨に賛同し、**運営主体**となり、大学との連携、学生などの地域人材の活用、企業などからの寄付により学習支援の事業を成立させている。クラウドファンディングにも挑戦した。

### ■私たちにできること

#### ●UNITYを核に、地域資源をつなげる。

(学生、市職員、ユニティ、企業・・・)

#### ●神戸の未来の姿は現在の子どもの姿にある。

子ども達とつながることにより、社会を変えていく。

#### <意見交換など>

- ・小学生まで対象を拡げてはどうか。小学生時代に格差広がる。
- ・行政が手に及ばないところで、少年から青年に成長を見守るというボランティアワークであり、夢ゼミ、卒業式など成果が目に見えるなど素晴らしい活動です。
- ・名称の「みらい」には、将来への拡がりを感じる。期待します。

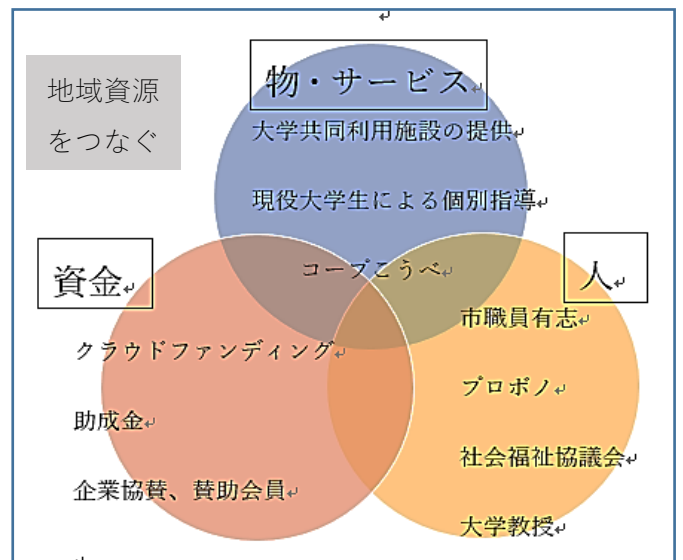
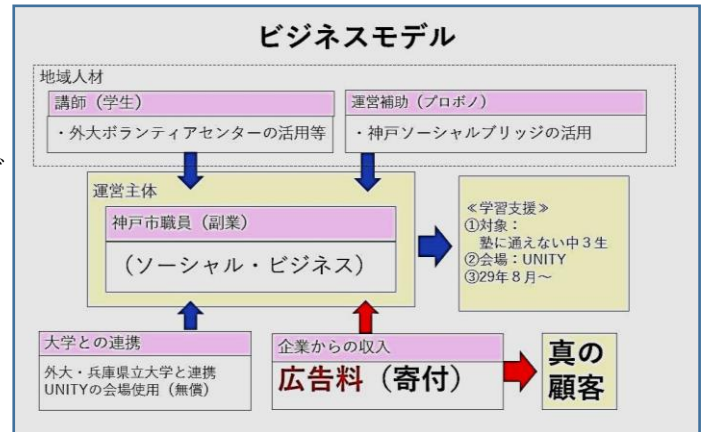
←数年間で、どんどん大きくなったが、いろんな方、

団体の支援で、がんばれた。市職員が自分の住んでいるところで、携わってほしい。(佐々木氏)

- ・地域での子育て支援の重要性がいわれている。放課後の子どもの居場所と連携することも考えられる。地域のボランティア等の力が必要ですが。

←地域では、子どもを選別しない(補助金が入ると、所得制限などが条件となる)学習室のモデルがいいと考える。神戸には、学生が多いなど条件が整っている。将来、居場所づくりと学習支援がうまく連携できるといいと思う。(佐々木氏)

文責 橋本



参考 寄付等については、HP [神戸みらい学習室 ご支援のお願い]で検索してください。